

卒業後3年次アンケート（2024年度実施）集計結果

京都大学文学部では、卒業後3年目の方を対象に、本学部を振り返って評価してもらうアンケートを実施し、その結果を公開しています。ご協力いただきました卒業生の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

【実施時期】

2024年11月18日～12月6日

【実施方法】

連絡先メールアドレスが判明している2021年度卒業生146名に依頼状を送信し、京都大学アンケートシステムにて回答を依頼した。卒業生からの回答数は25で、回答率は17.1%であり、昨年度（回答数18、回答率13.8%）に比べて、回答数、回答率ともに増加した。

【結果の概評】

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数選択可）では、「一般的な教養や知識」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「専門的な知識と技術」「自学自習の姿勢」が上位を占め、これらはいずれも回答者の半数以上が選択した。続いて「外国語の能力」「コミュニケーション能力」「自己管理能力」「社会的な常識」「専門分野の研究能力」「企画力や創造的思考力」「倫理観」を選択した回答が2～3割台で続き、「実行力」「協調性やチームワーク」「国際感覚や国際性」「リーダーシップ」に対する選択はそれ以下の割合であった。総じていえば、自らの意欲に基づき知識を身につけ問題を発見・解決する能力の習得が評価されている一方、チームや組織を牽引していくような能力が身についたとする意見が少ない傾向にある。ただし回答数が限られているため、単年度ではなく今後のトレンドを見る必要があるだろう。

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」については、「十分に満足している」および「それなりに満足している」とする回答が、合計で100%となった。これは前年度を上回る数値であり、すべての回答者が文学部の教育に高い満足を感じていることは注目すべき点であろう。むろん、未回答者が多くいることに留意すべきであり、また単年度の結果に極度に拘る必要はないと思われるが、今後の動向に注意したい。

【自由記述欄】

Q.04「文学部での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。」

昨年度と同じく、研究テーマを自由に決定できること、興味の赴くままに主体的に学ぶことができるなど、文学部の自主性を尊重する学風を評価した意見が多かった。また、貴重な文献へのアクセス、教員や友人からの良き刺激や交流といった充実した学習環境、他の専修・分野についても幅広く学べる事など、専門知識への関心の広がりへの評価も目立った。いずれも文学部の教育の特色を反映しているものと考えられる。以下、その特徴を示す回答を列挙する。

- 「自分が動かないと周りも動かない」「暗黙の意志一致は危険、具体的に推進しようとするまで不一致点は炙り出されない」など、現実主義的な主体性を学んだ。
- 現地現物に触れさせてくれるところ貴重な一次資料やその複写物にすぐにアクセスしやすいところ
- 比較的制約が少ないところ
- 多方面へ知的好奇心を刺激してくれる授業を数多く受けられた点。自分の価値観や物事の考え方を構築していく中で、広く深い知識と優れた洞察力を持った先生方が身近におり、目標となって下さった点。
- 自分の所属する専修での勉学（歴史学）だけでなく、他の専修の講義（哲学や社会学など）にも出席しやすく、様々なアプローチ、考え方の立場に触れることができ、社会で今起きていることに対し、自身の考えの幅が広がったと感じている。
- 高校までの「勉強」とは異なり、「学問」として研究分野を捉え、特定の分野において自身の専門性を高める、という機会は、人生の中で最初で最後かもしれないので、非常に良かったと考えています。
- 自由闊達な学風と授業スタイルの中で、いち分野にとらわれない人文学の幅広い素養を身につけられたことと、各分野の第一線に精通する教員のみならず、学友との出会い。また、「実学」としては社会学専修での一連の社会調査・分析法の学びが現在マーケットとしてのキャリア形成の礎になっています
- 就職にとらわれずやりたい学問に取り組めた点。
- 良い意味で伝統的なスタイルを残しているところ。自学自習（放任）をモットーとし、個々人が学問に限らず興味のあることに打ち込むことができる環境があるおかげで、自由闊達な議論が生まれていると思う。
- 妥協することなく学問に打ち込むことができる環境。
- 自分の関心のある領域に関して、ノルマが比較的少なく自由に学べる余地があるところ。専門領域以外についても自由選択という形で横断的に授業を履修できるところ。
- 自分のやりたい分野を学ぶことができたところ。
- 自由に研究させていただきました。その上で、先生方には、私からの質問には常に真摯に対応いただきました。大変感謝しております。
- 自由に学び、自由に研究させてもらえたところ。また、指導して下さった先生が見捨

てずに粘り強く指導して下さったところ。

- 歴史、言語、行動、文化など多分野に渡って興味を追及できる点がよかったです。専攻を決めた後も、他の分野の授業を受けることで思いがけず自分の研究領域の理解が深まったり、視野を広く保てるところが良いと思います。
- 自分で自由に課題を設定して、それを研究できるところ。強制する雰囲気がないところ。
- 輪読を基本とするゼミ形式の授業と、修論の執筆の経験は、論理的な思考力と表現力を鍛えるのに非常に役立った。専門分野に限らず、これからのキャリア全体で生きる普遍的な能力を伸ばすことができた。またその途上で得られた知識も、現代史学専修という現代の世界に直結した時代を対象とする歴史学を専攻していたためでもあるが、公務員としての自分の仕事に役立っていると感じる。成り行きではあったが、大学院に進学できて幸運だった。

Q.5「文学部での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。」

例年と同じく、自主性を尊重する学風のマイナス面に関する指摘がなされたほか、キャリアサポートや留学、勉学にあたっての学生に対するサポートが手薄だという批判、他部局との連携不足、専修内外の教員や学生との交流の欠如、専修の選考システムの改善や教職取得に配慮した開講をうったえる意見などが見られた。また、建物の照明や Wifi などの環境面への不満のほか、コロナ禍における対面での議論や研究室訪問の不足という时期的な問題に対する意見も見られた。以下、その特徴を持つ回答を示す。

- 文科省や財務省に負けないで！
- アカデミアにおける業績重視の傾向に乗り遅れているところ。現状の流れの中で研究者として立ち立つための教育を受ける機会をより強化することが望ましい。
- 自分は3年の前期までにほぼ全ての単位を揃え、その後燃え尽きてしまい卒論関係の授業以外を取らないまま卒業してしまったことが心残りです。
- たくさんの面白い講義があるにもかかわらず、講義のタイトルだけでわからないことが多かったので、受講登録の前に講義の概要がもう少しわかりやすくなると良いと思いました。
- 環境面。教室・廊下ともに、理系棟や法経会館と比べてかなり薄暗く、学習に向かう気分を削がれる。また、他学部と比較して学部内での交流機会に乏しく、タテ・ヨコの繋がりを形成しづらい。
- コロナ禍であったこともあり対面での議論の機会が十分に取れなかったこと。
- 専修の選考システムについては疑問が残る。十分な研究能力と興味関心があるにもか

かわらず、授業の成績で判定され、入りたかった専修の選考にもれてしまった人がいたと聞いた。当人の興味関心や研究能力を広く測ることのできる仕方で選考を行うほうがよいのではないか。また伝統的なやり方を重んじる一方で、内輪にとどまってしまい時代のニーズに対応するポテンシャルを生かしきれていない気がする。もちろん、大学は社会から自立した存在であり、就職予備校ではないという今の方針は、量産型大学があふれてしまう今日において価値を持っている。しかし、就職・留学などの機会や情報を個人が「求めれば得られる」ということをみんな知らなさすぎる。私自身修士で1年ドイツに留学したが、帰国後語学の勉強や留学のシステム、奨学金などについて非常に多くの質問が寄せられた。こうした可能性があるということをもっと大学の側からオープンにできたら、意志はあるのに手段を知らない人たちに届くのではないか。

- 教職取得への配慮が無かった点(専門科目と教職科目の開講被り)
- コロナであったこともあり、研究室を訪問出来なかった。何かをするにしても1人でやらざるを得ずしんどい思いをした。
- 上層階(4階以上)にWiFiを設置してほしい。
- もっとITを取り入れて楽にできる部分は楽にして、本質的なことに集中するのがいいと思った。例えば、テキストをプリントで配布するのではなくて、PDFで渡したり、生成AIを使ったりするとか。
- 放任主義の短所をカバーできていない。大学に伝統的な放任主義は、熱意に富む学生にとっては自由に研究を進め自らを高めるのに非常に良い環境を提供しているが、熱意に欠ける学生にとっては、杜撰な成績評価システムと相まって、4年あるいは6年以上の在学期間に見合う学習成果を与えられていない。特に学部生は、友人たちを見ても、バイトとサークルと就活に明け暮れる自由だけが与えられた無為な4年間である場合が多かったように見える。教員不足など困難な背景があることは承知しているが、日本の伝統的な雇用形態が崩れ、労働市場がますます個人の技能を重視する今の世の中にあっては、「理系」学部・学科のみならず文学部・文学研究科もまた、学生、保護者、経済界の負託に応えられるよう、教育システムの質を向上させるべきだと思う。

以下の自由回答については個別に説明する。

- 研究室に配属後、教授に権限が集中しすぎていたために、人間関係での悩みが多く勉学に集中しづらいことが多かったです。具体的には、教授が陰で学部生や院生の愚痴を言う・機嫌の悪い態度をとる・衝動的に暴言を吐くなどといった行為が頻繁にみられました。教授に嫌われると研究に不利になるため、逆らえない状況でした。教授にかかるストレスを減らす、他の研究室ともオープンな関係を築くことができるようにするなど、改善策があると少しでも良い状況になるのではと思います。

本アンケートは卒業生に匿名での回答をお願いしているため、回答された方にコンタクトを取ることはできず、したがって本回答について事実関係の確認はできない。また自己点検・評価委員会では、回答された方がどの専修の卒業生であるか把握していない。しかし、もし事実であればハラスメントにあたる極めて深刻な内容であるため、文学研究科長に本回答について報告を行った。研究科長はシステム上、該当する専修が把握できるため、該当する専修の主任にアンケートの回答を共有し、事実確認ができないことを前提としたうえで、厳重に注意を促した。また、回答された方を特定しようとすることや、その方にコンタクトを取ろうとすることはくれぐれも行ってはならない旨について厳重に指示した。当該専修では、学生を指導する教員の間でアンケートの回答を共有し、互いに注意喚起を行った。

2024年度 卒業後・修了後3年次アンケート

作成部局 文学部

回答期間 2024.11.18-2024.12.09

対象者数：146人 回答者数：25人 回答率：17.1%

2024年度 卒業後・修了後3年次アンケート

[回答期限] 2024年12月6日

[実施要項] 京都大学卒業（修了）3年次アンケートのお願い

あなたが属していた系（専攻）を教えてください。

対象者数：146人 回答者数：25人 回答率：17.1%

設問形式 ラジオボタン

1	哲学基礎文化学系（思想文化学専攻）	4票 / 16%	2	東洋文化学系（文献文化学専攻・東洋系）	1票 / 4%	3	西洋文化学系（文献文化学専攻・西洋系）	4票 / 16%
4	歴史基礎文化学系（歴史文化学専攻）	9票 / 36%	5	行動・環境文化学系（行動文化学専攻）	4票 / 16%	6	基礎現代文化学系（現代文化学専攻）	3票 / 12%

全25票



あなたの現況について教えてください。

対象者数：146人 回答者数：25人 回答率：17.1%

設問形式 ラジオボタン

1	社会人（一般企業等で就労）	16票 / 64%	2	社会人（官庁・地方自治体等で就労）	2票 / 8%	3	社会人（教員・司書等の専門職として就労）	2票 / 8%
4	社会人（非就労）	1票 / 4%	5	学生・院生（京都大学）	2票 / 8%	6	学生・院生（他の大学）	0票 / 0%
7	学生・院生（その他の学校）	2票 / 8%	8	その他 自由記述	0票 / 0%			

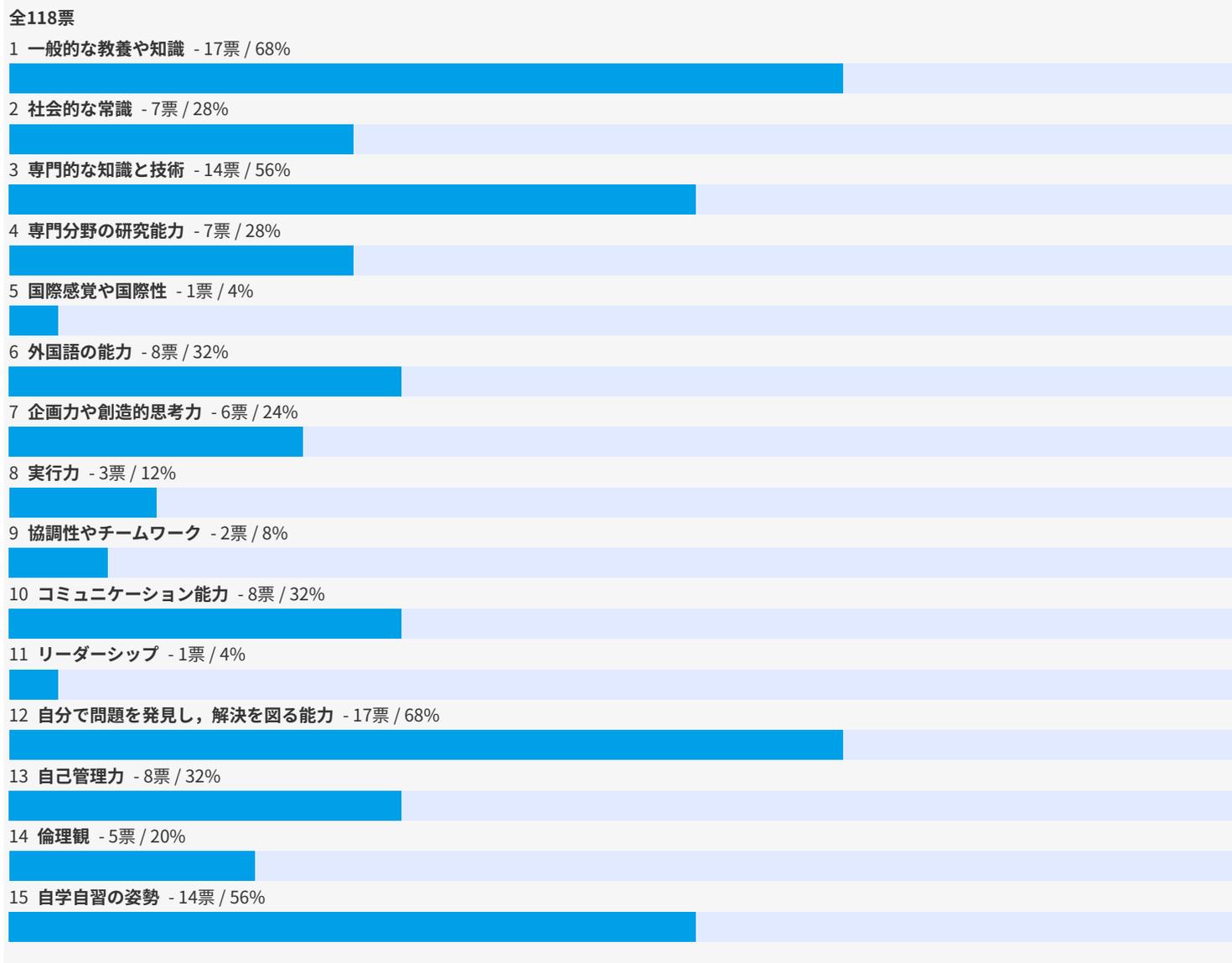
全25票



文学部（文学研究科）での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください（複数選択可）。

対象者数：146人 回答者数：25人 回答率：17.1%

設問形式 チェックボックス



振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

対象者数：146人 回答者数：25人 回答率：17.1%

設問形式 ラジオボタン

1 十分に満足している。 12票 / 48%	2 それなりに満足している。 13票 / 52%	3 どちらとも言えない。 0票 / 0%
4 あまり満足していない。 0票 / 0%	5 満足できず、後悔している。 0票 / 0%	

全25票

1	2
48%	52%

修了後3年次アンケート（2024年度実施）集計結果

京都大学文学研究科では、修了後3年目の方を対象に、本研究科を振り返って評価してもらうアンケートを実施し、その結果を公開しています。ご協力いただきました修了生の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

【実施時期】

2024年11月18日～12月6日

【実施方法】

連絡先メールアドレスが判明している2021年度修了生（修士73名、博士23名）に依頼状を送信し、京都大学学外アンケートシステムにて回答を依頼した。修士課程修了生からの回答数は10（回答率13.7%、前年度は18.4%）、博士後期課程修了生からの回答数は7（回答率30.4%、前年度は25.0%）で、修士の回答率は昨年度より減少し、依然として低い状態にとどまっているが、博士の回答率は昨年度より上昇した。

【結果の概評】

〈修士課程〉

Q.03「文学研究科での勉学を通じて身につけ、修了後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数選択可）では、「一般的な教養や知識」「専門的な知識と技術」「専門分野の研究能力」「外国語の能力」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」が上位を占めた。これらはいずれも回答者の過半数が選択した。回答者の絶対数が少ないため、単年度の結果に拘る必要はないと思われるが、今後の動向に注意したい。

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」については、「十分に満足している」および「それなりに満足している」とする回答が、合計90%となった。文学研究科修士課程の教育が高い満足度を維持していることがうかがえる一方、「満足できず、後悔している」との回答もみられた。

〈博士後期課程〉

Q.03「文学研究科での勉学を通じて身につけ、修了後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数選択可）は、「外国語の能力」を選択した回答者が最も多く、次いで「専門分野の研究能力」「一般的な教養や知識」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自学自習の姿勢」が上位を占めた。いずれも研究者に求められる重要な能力であり、研究者の養成を目的とする博士後期課程の教育の成果が出ていると思われる。おおむね前年度通りの結果であったが、「専門的な知識と技術」については今年度の回答割合がやや少

なかった。しかし、回答者の絶対数が少ないため、単年度の結果に極度に拘る必要はないと思われる。今後の動向に注意したい。

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」については、「十分に満足している」および「それなりに満足している」とする回答が、合計で 100% となった。文学研究科博士後期課程の教育が高い満足度を維持していることがうかがえる。

【自由記述欄】

〈修士課程・博士後期課程〉

Q.04「文学研究科での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。」

研究の自主性と自由を重んじる学風、研究室内外の教員や他の学生との交流の有益さ、授業の充実と質の高さ、多様性といった文学研究科の特性を高く評価する意見が多く見られた。また図書館の自由な使用など、研究環境の充実に関する意見もあった。以下、特徴的な回答を挙げる。

〈修士課程〉

- 指導教員の専門に合わせて自身の研究テーマを決めるのではなく、自身の関心に応じて自由に研究テーマを決めることができる
- 分析力、外国語能力
- ほったらかしにされる中で自分を律して研究に向かう姿勢を涵養できた点。管理ばかりが優先される現代社会において、文学部・文学研究科の環境は当世得難いものがあると感じる。
- 自分の専門性を、同じ志をもつ仲間と極められる点。

〈博士後期課程〉

- とにかく楽しかった。しんどくもなかったけど。
- 図書館の保有文献数や自宅でも無料でダウンロードできるジャーナルや電子書籍数が多いことで、研究に支障なく先行研究調査ができること。著名な教員から直接指導を受けられたことや論文集の編集や学会の準備などの機会が与えられたこと。
- 自由な雰囲気があることがもっとも印象に残っている。
- 研究活動における学生の裁量が大きく、時間や場所に拘束されなかったことで、研究を継続することができた。

Q.5「文学研究科での勉強について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。」

全体として回答は少ないものの、自主性を尊重する文学研究科の学風のマイナス面を指摘する回答や、教員の指導に対する不満を述べる意見が散見された。また、文学部図書館書庫が使えない時期における不便さや、コロナ禍におけるつながりの希薄さといったこの時代に特徴的な意見も見られた。以下、特徴的な回答を挙げる。

〈修士課程〉

- 文学部図書館書庫が使えない時期が長期にわたり、非常に不便だった
- コロナ禍ゆえかもしれないが、横のつながりが希薄なまま卒業してしまったことが残念だった
- 自主的に先輩を巻き込まないと適切な教育を受けられない点。言い換えると、指導教員の方から論文指導を受けられる回数は少ない。

〈博士後期課程〉

- 自由回答なし。

以下の回答については個別に説明する。

〈修士課程〉

- パワハラにあたる言動があり、カウンセラー室経由で相談をしたが、取り合ってもらえなかった。教授自身がハラスメント委員会にはいっているため、ハラスメントが起こったときに対応する機能がない。また、研究室によって受けられるゼミや指導の質がかなり偏っている。自身が所属していた研究室ではゼミ自体が存在せず、論文についても指導することを拒否された。卒業後の研究についてむしろ研究活動が続けることを阻害する環境だと感じた。これらが改善されない限り、他の人にも勧められる環境とはいえないと感じた。

本アンケートは修了生に匿名での回答をお願いしているため、回答された方にコンタクトを取ることはできず、したがって本回答について事実関係の確認はできない。また自己点検・評価委員会では、回答された方がどの専修の修了生であるか把握していない。しかし、もし事実であればハラスメントにあたる極めて深刻な内容であるため、文学研究科長に本回答について報告を行った。研究科長はシステム上、該当する専修が把握できるため、該当する専修の主任にアンケートの回答を共有し、事実確認ができないことを前提としたうえで、厳重に注意を促した。また、回答された方を特定しようとすることや、その方にコンタクトを取ろうとすることはくれぐれも行ってはならない旨について厳重に指示した。当該

専修では、学生を指導する教員の間でアンケートの回答を共有し、互いに注意喚起を行った。

2024年度_修士_修了後3年次アンケート

作成部局 文学研究科

回答期間 2024.11.18-2024.12.09

対象者数：73人 回答者数：10人 回答率：13.7%

2024年度_修士_修了後3年次アンケート

あなたが属していた系（専攻）を教えてください。

対象者数：73人 回答者数：10人 回答率：13.7%

設問形式 ラジオボタン

1 文献文化学専攻・東洋系 1票 / 10%	2 文献文化学専攻・西洋系 2票 / 20%	3 思想文化学専攻 1票 / 10%
4 歴史文化学専攻 4票 / 40%	5 行動文化学専攻 2票 / 20%	6 現代文化学専攻 0票 / 0%

全10票



あなたの現況について教えてください。

対象者数：73人 回答者数：10人 回答率：13.7%

設問形式 ラジオボタン

1 社会人（一般企業等で就労） 4票 / 40%	2 社会人（官庁・地方自治体等で就労） 0票 / 0%	3 社会人（教員・司書等の専門職として就労） 1票 / 10%
4 社会人（非就労） 1票 / 10%	5 学生・院生（京都大学） 3票 / 30%	6 学生・院生（他の大学） 0票 / 0%
7 学生・院生（その他の学校） 1票 / 10%	8 その他 0票 / 0%	

全10票



文学部（文学研究科）での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください（複数選択可）

対象者数：73人 回答者数：9人 回答率：12.3%

設問形式 チェックボックス

全61票

1 一般的な教養や知識 - 8票 / 89%

2 社会的な常識 - 2票 / 22%

3 専門的な知識と技術 - 7票 / 78%

4 専門分野の研究能力 - 6票 / 67%

5 国際感覚や国際性 - 4票 / 44%

6 外国語の能力 - 6票 / 67%

7 企画力や創造的思考力 - 2票 / 22%

8 実行力 - 4票 / 44%

9 協調性やチームワーク - 3票 / 33%

10 コミュニケーション能力 - 3票 / 33%

11 リーダーシップ - 2票 / 22%

12 自分で問題を発見し、解決を図る能力 - 5票 / 56%

13 自己管理能力 - 3票 / 33%

14 倫理観 - 2票 / 22%

15 自学自習の姿勢 - 4票 / 44%

振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

対象者数：73人 回答者数：10人 回答率：13.7%

設問形式 ラジオボタン



2024年度_博士_修了後3年次アンケート

作成部局 文学研究科

回答期間 2024.11.18-2024.12.09

対象者数：23人 回答者数：7人 回答率：30.4%

2024年度_博士_修了後3年次アンケート

あなたが属していた系（専攻）を教えてください。

対象者数：23人 回答者数：7人 回答率：30.4%

設問形式 ラジオボタン

1 文献文化学専攻・東洋系	1票 / 14%	2 文献文化学専攻・西洋系	2票 / 29%	3 思想文化学専攻	0票 / 0%
4 歴史文化学専攻	3票 / 43%	5 行動文化学専攻	1票 / 14%	6 現代文化学専攻	0票 / 0%

全7票



あなたの現況について教えてください。

対象者数：23人 回答者数：7人 回答率：30.4%

設問形式 ラジオボタン

1 社会人（一般企業等で就労）	0票 / 0%	2 社会人（官庁・地方自治体等で就労）	1票 / 14%	3 社会人（教員・司書等の専門職として就労）	5票 / 71%
4 社会人（非就労）	0票 / 0%	5 学生・院生（京都大学）	0票 / 0%	6 学生・院生（他の大学）	0票 / 0%
7 学生・院生（その他の学校）	0票 / 0%	8 その他	1票 / 14%		

全7票



文学部（文学研究科）での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください（複数選択可）

対象者数：23人 回答者数：7人 回答率：30.4%

設問形式 チェックボックス

全36票

1 一般的な教養や知識 - 5票 / 71%

2 社会的な常識 - 0票 / 0%

3 専門的な知識と技術 - 4票 / 57%

4 専門分野の研究能力 - 6票 / 86%

5 国際感覚や国際性 - 3票 / 43%

6 外国語の能力 - 6票 / 86%

7 企画力や創造的思考力 - 1票 / 14%

8 実行力 - 1票 / 14%

9 協調性やチームワーク - 0票 / 0%

10 コミュニケーション能力 - 0票 / 0%

11 リーダーシップ - 0票 / 0%

12 自分で問題を発見し、解決を図る能力 - 4票 / 57%

13 自己管理能力 - 1票 / 14%

14 倫理観 - 1票 / 14%

15 自学自習の姿勢 - 4票 / 57%

振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

対象者数：23人 回答者数：7人 回答率：30.4%

設問形式 ラジオボタン

1 十分に満足している。 5票 / 71%	2 それなりに満足している。 2票 / 29%	3 どちらとも言えない。 0票 / 0%
4 あまり満足していない。 0票 / 0%	5 満足できず、後悔している。 0票 / 0%	
全7票		
1		2
71%		29%